

みなと元町 TOWN NEWS



No. 299

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

「屋上広告物及び壁面広告物の掲出の制限」を追加 みなと元町タウン憲章 運営内規 6年ぶり改訂

平成29年度総会決議からの緊急報告

みなと元町タウン協議会地域には、栄町通、元町商店街、ハーバーロードで神戸市と景観形成市民協定が締結されているが、それ以外の地域に対しては平成14年3月に制定した「みなと元町タウン憲章」を基準に、まちづくりへの協力をお願いしてきた。みなと元町タウン憲章は、明確な判断基準となる条文がなかったことから回答に苦慮することがあり、その反省から、平成23年11月に運営内規を制定したが、このほど「屋上広告物及び壁面広告物の掲出の制限」に関し



第4条 本エリアの建築物等の屋上部分に掲出する屋上広告物及び外壁面に掲出する壁面広告物は、当該ビルの所有者もしくは当該ビルテナントの自家用のみとし、貸広告は掲出できません。但し、付則第2条の本運営内規効力発効日より前に既に掲出されている貸広告にあっては、この限りではありません。
2 前項但し書きの貸広告につき、建物所有者の意思によって全撤去した場合は、再掲出できません。
(付則)第2条 運営内規は、平成29年12月2日より効力を発する。

とする条文が平成29年6月2日(金)午後3時30分からまちづくり会館で開催した総会に上程、満場一致で承認された。効力の発効日は12月2日としているが、周知期間とし設けたもので、発効日以前に提出された案件に対しても、同条文の主旨を回答することも併せて確認している。

みなと元町タウン憲章 運営内規

- (総則)
第1条 本運営内規は、みなと元町タウン憲章(以下「本憲章」という。)に掲げるまちづくりの目標の達成のため、みなと元町タウンエリア(以下「本エリア」という。)で建替え・開発行為や居住・営業(テナント)等を行おうとする者に対して、建築確認等行政許可手続き前に、みなと元町タウン協議会(以下「本協議会」という。)から遵守いただきたい事項として要請する内容を具体的に示します。
- (建築物の用途の制限)
第2条 本エリアにおいては、次に掲げる用途の建築物等は建築できません。ただし、本憲章を採択した平成14年3月8日以前より現存する下記の施設が同面積以内の改築、修繕等を行う場合はこの限りではありません。
(1)ラパホテル、個室付浴場、パチンコ屋、ゲームセンター等、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律(昭和23年法律122号)第2条第1項及び同条第6項に定めるもの
- (街なみ景観への配慮)
第3条 本エリアで建築物等の新築、増築、改築、撤去、大規模の修繕、宅地の造成その他の土地の形質の変更、その他街なみ景観の形成に影響を及ぼすおそれのある行為をする者は、本協議会定例会に出席し、行為の内容を説明の上、関係者の了解を得よう努めます。
- (屋上広告物及び壁面広告物の掲出の制限)
第4条 本エリアの建築物等の屋上部分に掲出する屋上広告物及び外壁面に掲出する壁面広告は、当該ビルの所有者もしくは当該ビルテナントの自家用のみとし、貸広告は掲出できません。但し、付則第2条の本運営内規効力発効日より前に既に掲出されている貸広告にあっては、この限りではありません。
2 前項但し書きの貸広告につき、建物所有者の意思によって全撤去した場合は、再掲出できません。
- (敷地の緑化等と維持・管理)
第5条 本エリア内の土地建物所有者、管理者及び居住者並びに営業者は、自己が所有もしくは管理する敷地の緑化に努めます。
2 前項に掲げる者は、空地や屋外駐車場について、敷地周辺の緑化等、修景に努めます。
3 第1項に掲げる者は、自己が所有もしくは管理する土地や建物について、いつまでも美しい状態を維持するよう努めます。
- (その他の活動)
第6条 前条第1項に掲げる者は、本エリアの清掃活動や緑化運動等、美しい街なみを形成・維持するための活動を互いに協力して推進します。
- (付則)
第1条 本運営内規は、平成23年11月11日より効力を発する。
第2条 本運営内規は、平成29年12月2日より効力を発する。以上

三町・夢街道
書店の話①
本という文化のいま
岩田照彦

本は、今までの歴史の終わりに立たされている。敗戦後、出版の前の行列ができたころから、本は、今、人が集まるところに少なくて、今は、本に打ちこむ人が少ない。この時に、「本と私」という題で、八編が集まったという文化について、おどろいた。本という文化について、危機感が、この日本でも広く共有されているからではないか。

同書には、本のもつ魅力満載の思いをつづった十九の作品が、「遠い日の記憶」「読書、その多様な形」「本とともに広い世界へ」「本を書く、本をつくる」「この人に魅せられて」と5つのテーマに分けて紹介されている。鶴見は、八編もの応募者があったことにおどろきながら、本という文化への危機感が広く共有されているから、とみる。

七、八、不明三人という構成だが、世代別の応募者数に、危機感の実態が浮きあがってくる。

七十代二〇六、六十代一八三人、五十代一三四人、四十代一〇九人、三十代七十七人、二十代四十一人、二十代三十八人、二十代八人、十代四人、不明二十六人となつていて、もともとも本に親しむ時期にある十代からの応募者が最低で、九十代の半数にすぎない。七十代をピークに六十代、五十代、四十代、三十代と、世代の若返りとともに応募者数が減っていく。

さらに鶴見は、いう。同種の試みが江戸時代になされたら、また明治初期、大正初期、戦中の昭和、戦後の昭和になされたら、年齢別でも、男女別でも、ちがう分布を示したにちがいない。それを想像の中において、今直面している本の危機に、対したい。

アマゾンに代表される書籍購入路が生まれ、電子書籍が読者の端末と結びつくことも可能になった。「歴史の終わりに立たされている」世界だ。が、「本」にまつわる元町での動きをたどってみたい。

栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は6月9日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は(元栄海3丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市住宅都市局)坂田竜一・田中淳也、(日本アジア証券(株))折口雅弥、(広島銀行)原見太郎、(株)トマト銀行)高畑佳織、(兵庫県信用組合)谷本峻一・松岡世和、(パナホーム(株))堀谷臣・鈴木京子、(銀泉興産)高本巧智、(三鈴マシナリー(株))水口裕美子、(神明倉庫)小林孝洋、(株)イーエスプランニング)大澤優希、(株)神明)津田章子、(大産業(株))高橋美樹子、(新光明飾)中川俊・藤田直之・西村友博・篠原博明・大森喜美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之、22名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



神戸元町商店街 楽市楽座 7月

- ◇元町商店街連合会 Tel.391-0831
第36回元町夜市 7月25日(火)18時~21時
- ◇元町1番街商店街振興組合 Tel.331-7850
水曜市 7月19日(水)10時~19時
第2回元町1番街川柳コンテスト
6月24日(土)~7月31日(月)
- ◇風月堂ホール(有料) Tel.321-5555
もどまち密席「恋雑草」
7月10日(月)
笑福亭 智之介 桂 米紫 桂 坊枝
笑福亭 枝鶴 中入 月亭 遊方
桂 文太
前売券:6月11日より風月堂で発売
- ◇神戸元町賑わい座(有料) Tel.090-8389-0300(里中)
7月15日(土)~7月17日(祝)11時~15時
「ブルーメンの音楽隊」
- ◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) Tel.361-4523
7月6日(木)~7月11日(火)
第54回 兵庫倶楽部写真会写真展(写真)
7月13日(木)~7月18日(火)
第34回 木彩会(油彩・水彩)
7月20日(木)~7月25日(火)
第19回 きんもくせい会(水彩)

編集後記

創立六十周年を迎えた劇団が元町にあるのを御存知ですか。一九五七年、稽古場も道化座の間借りでスタートした「劇団四紀会」。七十九年、稽古場を元町プラザビルに移転、老若男女を交えた劇団員の舞台は、文化ホールや県民小劇場、児童文化館、小学校など、演劇の楽しさを幅広く広げてきた。九十八年には神戸市文化活動功労賞も受賞。二〇一一年から元町の稽古場を元町プシシアターとして「神戸元町賑わい座」と命名、定期的に公演する。創立六十周年を機に、本紙「楽市楽座」の舞台にも登場していただく。このころ。



海という名の本屋が消えた (44)

平野義昌

淀川長治その2

1929(昭和4)年、淀川長治は東京から神戸に帰ってきた。姉と商売をするよう父に呼び戻されたわけだが、自らの徴兵検査もあった。結果は丁種不合格、通常は重病人や障害がある人、性病感染者だが、長治の場合は体格が平均以下で近視だった。検査官から「おまえ、死ぬで、運動せいよ」と慰められた。註1

自伝他著書には、小柄であること、体育が苦手なこと、大学入試当日高熱で寝込んだことなどが書かれているが、健康不安や大病の記述はない。また、兵士失格の劣等感で悩んだ文章もない。ただ、履歴書を書くことが嫌いで就職活動でも書いたことがないと回想し、不合格について、「そのころは非常に恥ずかしかったのであろう」と述懐している。註1

姉・富子がトアロードで西洋美術店を開く。長治は和服・角帯・前だれ姿であった。店の名称、はじめは「扇屋美術品店」、神戸港が扇港(せんこう、扇の形に見える)と呼ばれていることにちなんだ。ところが、お披露目のパーティーで小磯良平と竹中郁が、フランス製品が多いからフランス語にせよ、と助言し、「ラール・エヴァンティユ」(美術・扇)となった。ヨーロッパの美術工芸品、高級雑貨を買い入れ、お客が阪神間だけでなく東京からもやって来た。有名店になり、映画ロケにも使われた。夏のおみやげとして店名入りの扇を配ったところ、映画館の一等席がその扇で花が咲いたように見えたという逸話があるほど繁盛した。

長治は世界の高級品を扱うことで審美眼を高め、目の肥えた富豪や文化人に接することができた。

《しかし私はこのエヴァンティユには希望を持たなかった。もちろん映画の封切り初日にはこの店には落ちついてはおれるものではなかった。私は、やはり映画の仕事がどうしてもしたかった。》註1

長治は映画封切り館に欠かさず通い、映画雑誌を読みあさっていた。洋雑誌も辞書片手に読んでいたが、近所に住む英語・日本語堪能のドイツ人青年に英語を教えてもらえることになった。授業料代わりに月2回映画をおごった。最新の知識と情報を得られるのだから安い出費だ。おかげで原稿が雑誌に毎月掲載され、映画館発行のプログラムを任せられ、試写会に招待される。

この頃に長治は大切な人に出会っている。月1回元町の喫茶店「ビーハイブ」で開催する映画ファンの集まりに初老の男性が入ってきた。長治は「学校の下働きのオジイさんか、銀行のげんかん番」と思った。註1

その日のテーマは「自由を我等に」(1931年、ルネ・クレール監督)。参加者たちが高い評価をするなか、男性は面白くない、退屈したと発言し、皆に叱られ睨まれて引き上げた。彼は次の会にもやって来て、映画を2回見直して面白さに気づいたと感謝した。その後も参

加し、長治と交流が始まる。男性は森本清(すずし)という倉庫会社の重役。新しい知識・文化に敏感で、元町の喫茶店で若者たちにごちそうしていた人だ。長治は森本を60歳前後と思っていたが当時49歳。彼はハガキに長治の住所を印刷して持ち歩き、映画を見るたびに批評や感想を書き送った。註2

《……私は、この人と逢った初めてのころ映画もろくに知らぬ老人と思ったはおおまちがいで、その当時こそ映画には縁遠い人であったが、私はこの森本氏から「文楽」「歌舞伎」をことこまかに教えられ、実は神戸の第一級大劇場の聚楽館の創設者の一人でもありヨーロッパも旅し、私が南北(筆者註、江戸時代後期の歌舞伎作者「四代目鶴屋南北」)といえは書庫から南北の研究書数種を持ち出し、トーマス・マンといえはその古き訳本をただちに貸しあてられた。これから考えてこの森本氏が初めに『自由を我等に』がいつこう面白くございませんでしたといわれたその言葉は、ひょっとすると私たち若者を多少なぶったものではというおそくも出てくるのであった。》註1

森本は長治に、「知らぬことは打ち捨てるな、とことん調べるべし」と忠告した。長治も森本のラジオ出演に際し原稿を書いた。長治が東京に移ってから交友は続き、47(昭和22)年8月、死の床にある森本を見舞い泣いてしまう。森本が言う。

「泣いちゃいかん笑い給え、笑って下さい。きみは映画で成功した。私は嬉しい、笑い給え」註1

長治は姉の店で作家・谷崎潤一郎と知り合っている。姉は松子夫人が結婚する前からの友人で、夫妻そろって買い物に来た。谷崎はすでに大作家、気軽に話せる相手ではない。《わたしは、「いらっしゃいませ」と言っただけで、怖くて何も言えなかった。この大先生をおそるおそるのぞいたという感じ。それが、谷崎さんとの出会いでした。》註3

谷崎『細雪』は読者ご存知のとおり、船場のご寮さん・松子との出会いによって生まれた。谷崎3度目の結婚である。船場の裕福な家庭の四姉妹を中心にした物語で、阪神間のまちの様子も描かれている。39(昭和13)年7月5日の阪神大水害の状況も描写している。谷崎は関東大震災を経験している。この大水害に無関心ではいられない。

ここでは長治の水害体験を書いておく。長治の住まいは布引近くの熊内町、出勤時(大阪の映画会社ユニイトに勤務)、パーンという音が聞こえ、山の方を見た。《……山のくぼみのあたりからパツまたパツと水煙が立ったかと思えるや、それからほんの五秒くらいであろうか、パーンという何かをはじく音がした。おや、おかし、そう思うまもなく異様な水音を立て、濁流がすでに昨日からの降りつづけた雨で水たまりのあちこち見えるおもて通りに、泥い

ろの泡だった水が洪水のもの凄さで流れこんできたのであった。》註1

姉の店が心配になる。《電車は不通、その電車の線路の上も濁流あふれ、私の姉と店員たちの寝泊りしているエヴァンティユにやっととどりついたときには腰から下が泥水で見えるも哀れな姿となっていた。》註1

商品を2階に上げるが、8畳敷のペルシア絨毯は運べなかった。長治はユニイト配給作品を上映している阪急三宮駅の映画館が気に入る。姉の制止を振り切り向かう。濁流の底には大きな石が転がっている。《泳ぐように歩いていると向うから畳一枚がブカブカと浮いて流れてきた。たかが畳一枚、そう思って、それをよけようとした瞬間その流れてきた畳がもろに私のふともものにガクンとぶつかった。私は数人の人間に正面からアツと押し倒されたほどの強さで濁流の中へぶつ倒れたのであった。もう全身ずぶ濡れだ。しかしそれを気の毒がったり珍しがったりする人はひとりもない。みんなずぶ濡れなのだ。》註1

映画館前の道路には警官が出勤して、向こう側までロープを渡してあり、長治はそれにつかまりながら泥水の中を横断した。映画館は駅の上の階で、浸水していなかったものの孤立していた。支配人は泥まみれの長治を泣きながら抱きしめた。被災経験者は支配人の気持ちを理解できることでしょう。

戦後、長治は『映画之友』編集者として谷崎と取材だけではなく親しい関係を築いている。谷崎作品はたびたび映画化されたし、何より本人が映画好き、映画会社の脚本顧問をしたこともあった。1952(昭和27)年4月、長治は熱海の谷崎邸を初めて訪問し、長時間インタビューした。谷崎が完成原稿を見たいと言うので、長治が持参し、恐れ多く廊下で正座して待った。2、3カ所朱を入れ、「こうしなさい、でもわりによく書けています」とほめてくれた。谷崎死後も松子夫人とは家族同様の付き合いが続いた。註3

註1 『淀川長治自伝 上・下』(中公文庫、1988年)
註2 『森本清』、社史『創業者「森本六兵衛」を辿る 六兵衛の生きた時代と森本倉庫』(森本倉庫株式会社、2002年)に1カ所だけ登場。1909年森本倉庫が再建を任せられた美術印刷会社の取締役に名前がある。
註3 『淀川長治の追想の扉』(TBSブリタニカ、1996年)



阪神大水害時の三宮そごう前
『写真集 神戸一〇〇年』(神戸市、1989年)より

出来事ファイル (No.17-7)



兵庫県産業労働部産業振興局長
竹村英樹局長



神戸市住宅都市局計画部
三島功裕部長



宮本一郎神戸市中央区長

総会を終えた協議会は、同日午後六時から、兵庫県、神戸市をはじめ報道機関各社と地元自治会、商店街役員、企業会員らが集う恒例の懇親会をエスタシオン・デ・神戸で開いた。開会にあたり奈良山会長があいさつ、来賓として兵庫県は竹村英樹・産業労働局長、神戸市からは三島功裕・住宅都市局計画部長から挨拶を受け、宮本一郎・中央区長の音頭で乾杯、懇親会に入った。

懇親会は六十名をこえる参加者を迎え、エスタシオン・デ・神戸で

滝公園清掃グループへの感謝状贈呈も



説明する根津コンサルタント

平成二十九年六月二日(金)、まちづくり会館二階ホールで、午後三時三十分からみなと元町タウン協議会の平成二十八年度総会が開かれた。地元団体会員、企業会員らが出席した。奈良山会長のあいさつにはじまり、二十八年度の事業、決算に続き監査報告のあと平成二十九年度事業計画案、収支予算案、新築物件や看板など協議実績を報告、平成二十九年度の事業・収支計画を提出、承認された。さらに五号議案として、二十八年度に目立った屋外広告物への対応については、根津コンサルタントから、みなと元町タウン憲章運営内規に一条を追加することを提案、承認を得、総会を終わった。(運営内規の主旨と全文は二面に掲載)

第二十六回定期総会 開く

事業・収支に加え みなと元町タウン憲章運営内規も承認

席上、元町商店街にある唯一の滝公園を長年にわたって清掃、地域活性化に寄与したとして清電電広告の活動に対し、代表として出席した常務取締役・米海啓一、総務部長・山村喜一郎氏に、奈良山会長から感謝状と感謝の気持ちを贈呈した。



奈良山会長から清電電広告に感謝状授与

さらに神戸市から出席して頂いた経済観光局経済部商業流通課の古泉泰彦課長、環境局環境保全部地域環境課の横山民夫課長、中部建設事務所神戸支所長、交通局営業推進課から脇郁博課長、中央消防署長の今村明署長、報道機関から神戸新聞社企画総務局長兼人事総務室の今井和尚室長、(株)ラジオ関西代表取締役の桃田武司社長から、さまざまな角度から取り上げた地域への声が披露され、懇親会に実り多い花を添え、沢口氏(南京町商店街振興組合)のなかじめで午後八時散会した。

■近藤裕重さん 産業振興功労賞受賞

兵庫県は2017年の、県功労者表彰の受賞者266名を発表した。元町関係では、元町3丁目商店街振興組合理事長の近藤裕重さんが、永年、兵庫県商店街振興組合連合会常任理事をつとめ、兵庫県下商店街連合会の活動に大きく寄与したとして産業振興功労賞を受賞、5月17日(水)午後2時から兵庫県公館で表彰式が行われた。



■HDC・神戸駅間、 アスファルト舗装終わる

神戸駅・HDC間の空間は、元町方面と直結する道路機能を有す位置にあるため、歩道として多くの人々が利用していた。しかし同区間は凸凹が目立ち、水たまりができるなど、車椅子利用者には難所になっていた。弊協議会は、その間の修理工事をJR本社にお願いしていたが、5月末、アスファルトを流し込む作業が終わり、歩道の役割を果たす道として多くの利用者が見られるようになった。



□読者プレゼント

展覧会鑑賞ご希望の方は、はかきに住所、氏名、年齢、本紙へのひとことを添えて編集部まで。先着順で5組の方に招待券を差し上げます。

兵庫県政150周年記念先行事業
特別企画展「れきはく玉手箱」
場所：兵庫県立歴史博物館
☎079-288-9011
期間：7月15日(土)～9月10日(日)



武文彦自叙画伝(神戸線)官鉄東海道線
/神戸市内宇治川路切を通す(個人蔵)